

第5学年*組 国語科学習指導案

指導者 鈴木 真太郎
R3研修センター長期研修

1 単元名 大造じいさんとガン～物語の名場面を伝え合おう～

2 本単元（題材）の目標

- (1) 思考に関わる語句の量を増し、文章の中で使うとともに、語彙を豊かにすることができる。
(知識及び技能) (1) オ
- (2) 人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。
(思考力、判断力、表現力等) C (1) エ
- (3) 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。
(思考力、判断力、表現力等) C (1) オ
- (4) 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする。
(学びに向かう力、人間性等)

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①思考に関わる語句の量を増し、文章の中で使っていると同時に、語彙を豊かにしている。(1) オ	①「読むこと」において、人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。(C (1) エ) ②「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。 (C (1) オ)	①進んで、人物像や物語の全体像を具体的に想像し、学習の見通しをもって考えたことを文章にまとめようとしている。

4 単元について

(1) 教材観

本教材は、狩人「大造じいさん」とガンの頭領「残雪」との間に繰り広げられる戦いの物語である。美しいもの、感動すべきものに素直に心を動かす大造じいさんの人間味あふれる姿が、優れた表現を基に描かれている。そのため、叙述を基に想像したり考えたりしたことから、自分の考えをまとめることに適した教材であると考ええる。

(2) 児童観

1学期に実施した実態調査及び意識調査（令和3年*月*日実施、*人）では、「登場人物の相互関係や心情について、描写を基に捉えること」と「人物像を具体的に想像すること」に関して、課題を達成できた児童は*人であった。しかし、「文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめること」に関しては、自分の考えをまとめることができた児童は*人であった。また、意識調査では、「物語を読んで自分の考えをまとめること」に苦手意識をもっている児童が*人いることが分かった。主な理由は、「どう

という言葉に着目して考えればよいのか分からない」、「どういうことを書けばよいのか分からない」といったものであった。これらの結果から、本学級の児童は、登場人物の相互関係や心情、人物像などについて捉えたことから、自分の考えをまとめることにつながれないという実態があることが分かった。

(3) 指導観

本研究では、小学校第5学年「大造じいさんとガン～物語の名場面を伝え合おう～」の学習において、具体的な叙述を基に物語の名場面を伝え合うという言語活動を位置付ける。まず、既習教材である「ごんぎつね」の感想をマッピングし、具体的な叙述とのつながりを確認しながら物語を読む視点を分類・整理する。この活動で作成した「読み深め手引」を「大造じいさんとガン」を読む際の学習の手引として活用していく。次に、「大造じいさんとガン」の感想を基に物語を読む視点で分類・整理し、叙述に基づいてあらすじや登場人物の心情、人物像を捉える。そして、「つながるマップ」を活用し、具体的な叙述から理解したこととそこから考えたことを結び付けながら、物語の名場面を考える。さらに、交流場面を設定することで、友達の意見を取り入れながら、物語の名場面についての自分の考えをまとめることができるようにする。また、「考えをまとめる言葉・文例リスト」を示すことで、自分の考えを表現したりまとめたりする一助となるようにする。以上のような学習活動の工夫を通して、叙述を基に想像したり考えたりしたことから、自分の考えをまとめる力を育成していきたい。

5 単元の指導計画（9時間）

次	時	学習内容・活動	知	思	態	評価方法・留意点等
1	1	<ul style="list-style-type: none"> 本単元全体の見通しをもつ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 課題 「ごんぎつね」を基に、物語を読むコツを捉えよう。 </div> <ul style="list-style-type: none"> 事前に読んだ、「ごんぎつね」の感想を付せんを書く。 グループで、書かれている内容から付せんを分類・整理する。 どのようなことに着目しながら物語を読めばよいのかを捉える。 「読み深め手引」をまとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> まとめ 物語を読むときは、物語の展開や人物像、情景描写などに着目することが大 </div>				<ul style="list-style-type: none"> 本単元では、「大造じいさんとガン」における名場面を伝え合うという言語活動を行うことを確認する。 教師が作成した『『ごんぎつね』における名場面のモデル』を用いて、物語の名場面の定義を確認する。 印象に残ったことを、短い言葉で付せんを書くように促す。 付せんを用いて思考を可視化することで、感想を分類・整理しやすくする。 ○ 態①：感想を書けていない児童には、印象に残った出来事を想起したり、登場人物の心情を想像したりするように助言することで、感想を書けるようにする。【マッピング】 <ul style="list-style-type: none"> 児童の意見や発言を基に、「読み深め手引」につながる視点をまとめることで、次時以降の児童の学習への意欲を高めるようにする。
2	2	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 課題 「大造じいさんとガン」を読み、印象に残ったことを一言感想で表そう。 </div> <ul style="list-style-type: none"> 前時にまとめた読み深め手引を用いて、「大造じいさんとガン」を読む視点を確認する。 大造じいさんとガンを読み、一言感想を書く。 				<ul style="list-style-type: none"> 前時に作成した読み深め手引を用いることで、「大造じいさんとガン」を読む視点を明確にする。 一言感想を書く視点について確認する。 一言感想を短冊に書くことで、黒板で分類・整理できるようにする。 一言感想は、文例を示すことで、感想を書くことが苦手な児童も取り組みやすくする。 ○ 態①：一言感想を書けていない児童には、印象に残った出来事を想起し、そこ

	<p>まとめ 大造じいさんが残雪を助(例)けたことが印象に残った。</p> <ul style="list-style-type: none"> 読み深め手引きの視点に基づいて、一言感想を分類・整理する。 			<p>から考えたことを書くように助言したり、他の児童が書いた一言感想を紹介したりする。【一言感想】</p> <ul style="list-style-type: none"> 一言感想を、黒板で分類・整理することで、友達の考えを知る機会となるようにする。
3	<p>課題 一言感想を基に、物語の全体像を捉えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 前時に書いた一言感想を用いて、物語の展開を確認する。 大造じいさんの行動を軸として、物語の全体像を捉える。 <p>まとめ 物語の全体像を捉えるには、登場人物や場面の移り変わり、出来事を捉えることが大切。</p>		○	<ul style="list-style-type: none"> 「物語の全体像」という言葉について確認することで、本時のねらいを明確にする。 前時に書いた一言感想を活用することで、学習のつながりを意識できるようにする。 一言感想と、拡大した物語構成図を照らし合わせながら物語の展開を確認する。 大造じいさんの行動を軸として考えることで、物語の全体像を捉える視点を明確にする。 物語構成図を用いることで、物語の全体像を視覚的に捉えられるようにする。 <p>思①：物語の場面の移り変わりや出来事を捉えられていない児童には、一言感想に書かれていることや読み深め手引を参考にしながら考えるように助言する。【物語構成図】</p>
4	<p>課題 大造じいさんと残雪の人物像を捉えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 叙述を基に、大造じいさんと残雪の人物像を考える。 大造じいさんと残雪の人物像について交流する。 <p>・大造じいさんの人物像をまとめたグループと、残雪の人物像をまとめたグループが交流を行う。</p> <p>・交流を行い、それぞれの人物像について捉える。</p> <p>まとめ 人物像を捉えるには、その人物の会話や行動に着目して考えることが大切。</p>		○	<ul style="list-style-type: none"> 「人物像」という言葉について確認することで、本時のねらいを明確にする。 読み深め手引を確認することで、人物像を捉えるにはどのような叙述に着目すればよいかを理解できるようにする。 大造じいさんと残雪の人物像を捉えるグループに分かれ、それぞれがまとめた人物像を交流することで、二人の人物像を捉えられるようにする。 交流を通して、考えを広げたり深めたりできるようにする。 <p>思①：大造じいさんと残雪の人物像について、叙述を基に捉えられていない児童には、友達との交流を通して気付いたことを参考にすることで、自分の考えをもつことができるようにする。【人物分析シート】</p> <ul style="list-style-type: none"> 会話や行動に着目して人物像を考えることを確認することで、今後の物語の学習にも生かせるようにする。
5	<p>課題 大造じいさんの心情が、最も変化したのはどこだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 叙述を基に、大造じいさんの心情の変化を考え、交流する。 大造じいさんの心情の変化から、物語の山場について考える。 		○	<ul style="list-style-type: none"> 前時までに学習した物語の全体像や人物像を想起することで、本時の学習に取り組みやすくする。 <p>思①：大造じいさんの心情の変化について、叙述を基に捉えられていない児童には、前時までにを行った物語構成図や人物分析シートを参考にしながら考えるように助言する。</p> <p>【きっかけシート】</p>

		<p>まとめ 大造じいさんは、最初○○○だったが、△△△して、□□□になった。だから、山場は◇◇◇場面だと思う。</p>			<ul style="list-style-type: none"> ・大造じいさんの心情の変化から、山場を考えることにつながるようにする。 ・大造じいさんの心情が最も変化したところが、物語の山場であるということを確認する。 ・山場について考えたことが、次時からの名場面を考えることにつながるようにする。
6 本 時	<p>目標：名場面につながる一文と、その一文を選んだ理由を書くことができる。</p> <p>1 学習課題を知る。</p> <p>課題 「大造じいさんとガン」の名場面はどこだろう。</p> <p>2 名場面についての考えを交流する。</p> <p>3 「つながるマップ」に、名場面、心に残った一文とその理由を書く。</p> <p>まとめ 名場面→○○○の場面 一文→△△△…… 理由→□□□だから</p> <p>4 本時の学習を振り返り、次時への見通しをもつ。</p>		○	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・教室に掲示してある物語構成図などを用いてこれまでの学習を振り返ることで、本時の学習への意欲を高める。 ・物語の名場面の定義を確認することで、本時の学習のねらいを明確にする。 ・「つながるマップ」のモデルを示すことで、本時の学習活動を確認する。 ・交流を行うことで、名場面を決められない児童への参考となるようにする。 ・児童が選んでいる心に残った一文を確認し、全文掲示に線を引いていくことで、お互いの考えを共有できるようにする。 ・タブレットに「言葉リスト」を掲載しておくことで、いつでも活用できるようにする。 <p>知①：自分の思いや考えを表現できない児童には、言葉リストを活用するように促す。【つながるマップ】</p> <p>思①：名場面につながる一文を選ぶとともに、その一文を選んだ理由について自分の考えを書いている。</p> <p>【つながるマップ】</p>
7	<p>課題 名場面について交流し、友達の考えも結び付けながら、自分の考えを整理しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時に書いたつながるマップを交流する。 ・交流したことを含めて、自分の考えをつながるマップに書く。 <p>まとめ 私は、○○○だと思っていたが、友達の△△△という意見を聞いて、□□□という考えをもった。</p>		○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・交流の目的や視点を明確にすることで、活動が円滑に行えるようにする。 ・交流を通して、つながるマップに貼られた付せんを結び付けて自分の考えを整理するように促す。 ・付せんに書かれたことを取捨選択することで、自分の考えを明確にしていく。 ・つながるマップに貼られた付せんを結び付ける際は、矢印を書きこむことで、考えを整理した過程を可視化する。 <p>思②：自分の考えを書けていない児童には、前時に書いたことや付せんの内容を参考にしながら考えるように助言したり、言葉リストの活用を促したりする。【つながるマップ】</p>
3	<p>8</p> <p>・</p> <p>9</p> <p>目標：名場面について、自分の考えをまとめることができる。</p> <p>1 学習課題を知る。</p> <p>課題 名場面について自分の考えをまとめよう。</p> <p>2 名場面についての考えを交流す</p>				<ul style="list-style-type: none"> ・前時までに記入したつながるマップへの記述を基にまとめを行うことを確認することで、学習のつながりを意識できるようにする。 ・教師が作成した「名場面のモデル」を示すことで、本時の学習活動を確認する。 ・タブレットに「言葉リスト」、「文例リス

	<p>る。</p> <p>3 「つながるマップ」に、名場面についての自分の考えをまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>まとめ 私は、名場面は〇〇〇場面だと考える。なぜなら、△△△という一文が心に残ったから。この一文から、□□□と考えた。また、この場面で◇◇◇と思った。以上のことから、名場面は〇〇〇場面だと考える。</p> </div> <p>4 「大造じいさんとガン」の名場面について交流する。</p> <p>5 単元の振り返りを行う。</p>	◎	◎	<p>ト」を掲載しておくことで、いつでも活用できるようにする。</p> <p>◎ 態①：進んで、物語の名場面について考えたことを文章にまとめようとしている。【つながるマップ、観察】</p> <p>知①：自分の考えをより適切に表す語句を用いて、語彙を豊かにしている。【つながるマップ】</p> <p>思②：物語を読んで理解したことに基づいて、名場面について自分の考えをまとめている。【つながるマップ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流の目的や視点を明確にすることで、活動が円滑に行えるようにする。 ・本単元のねらいとする観点に基づいて振り返りを行うことで、学習したことを自覚できるようにする。
--	---	---	---	---

※ワークシート等は、こちらからダウンロードできます。

https://kyozai.ibk.ed.jp/resource/resourceDetail/tm_no/20366/spe_typ/0#